

第 学年	教科名	使用教科書	光村図書 国語2	担当教員	吉田 由美
------	-----	-------	----------	------	-------

付けたい 資質・能力	自己表現力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけ、様々な場面で活用する力を取得しているかを評価する。	・定期テスト ・小テスト
		思考・判断 ・表現	言語を通して正確に理解したり適切に表現する力や、言語をてがかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力がついているかを評価する。	・定期テスト ・レポートや新聞作成といった、「学習した事項を活用して取り組む」課題
		主体的に学習に 取り組む態度	授業の課題や目標を達成するために自分が工夫して取り組んだことや意識したことを振り返ることができるかや、学習によって得た新たな見解や自身の変容について捉えることができているかを評価する。	・振り返りシートの記述 ・課題への取組

【授業の進め方(授業のポイント)】
 物語文や論説文、古文の読み取りを通して様々な人々の経験や考え方に触れ、時に寄り添い、時に批判をしながら、自身の「考え方」を形にしていきます。
 授業の中で触れる漢字や文法、ことわざなどを身につけることは、自身の「考え方」をより豊かに、正確に表現するために必要なものです。「ただ暗記して終わるもの」ではなく、「日頃から使いこなすもの」として身につけていきましょう。
 国語科は「正解が一つとは限らない教科」です。それだけに、「自分の考え方を表現する力＝豊かな自己表現力」が求められる教科です。この1年間で、この「豊かな自己表現力」を身につけてほしいと思います。

【家庭学習について】
 ・教科書を読んで意味が分からなかった語句の意味調べをしておくだけでも、【学習目標】の(1)の達成に繋がります。
 ・本や新聞などの文章を読んで様々な人の考え方に触れ、それについて思いを巡らせることが(2)の達成に繋がります。ぜひたくさんの方の文章に触れてください。
 ・模試や受験では、「初めて見る文章」を読んで、問題に取り組むことになるので、なるべく色々なジャンルの文章を読み、たくさんの方の問題を解いていくことが大切です。

1学期		2学期		3学期	
1 広がる学びへ	見えないだけ アイスプラネット 枕草子 熟語の構成	4 人間のきずな	盆土産 字のない葉書 類義語・対義語・多義語	6 いにしえの心を訪ねる	漢詩の風景
2 多様な視点から	クマゼミ増加の原因を探る 思考のレッスン①具体と抽象 文法 単語の種類、副詞・連体詞 接続詞・感動詞	5 論理を捉えて	モアイは語る	7 価値を語る	君は「最後の晚餐」を知っているか
3 言葉と向き合う	短歌に親しむ 短歌を味わう	6 いにしえの心を訪ねる	平家物語 扇の的 徒然草 文法 動詞・形容詞・形容動詞 討論で多角的に検討する 立場を尊重して話し合おう	8 表現を見つめる	走れメロス 文法 助詞・助動詞

第2学年	教科名	使用教科書	「中学生の地理」「中学生の歴史」(ともに帝国書院)	担当教員	岩橋優樹・佐々木啓輔
------	-----	-------	---------------------------	------	------------

付けたい 資質・能力	社会参画力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ・他者との対話、諸資料と向き合うことで、当たり前と思っていることを問い直したり、捉え直す。 ・社会的事象に対して抱いた課題を、自分の力で批判的に解釈・評価する。 ・時間をかけて深く考える中で、自分の考えを深めて、自分の将来を見据えて考え続けていく。		知識・技能	・社会的事象について(～は～である)理解し、その知識を身に付けている。 ・社会的事象などについて調べ、まとめる技能をつけている。	・定期テストの点数 ・ワーク ・パフォーマンス課題
【学習目標】 ・社会参画するための力の基礎を身に付ける。 →これからの社会の創り手として、社会の中で活躍・貢献する。 ・よりよい社会を作るために主体的に社会と関わること。 →社会のことがらを自分事として捉える。		思考・判断 ・表現	・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想(複数の立場や意見を踏まえて選択・判断)している。 ・適切な資料・内容や表現方法を選び、根拠や理由を明確にして、論理的に説明する。 ・仲間との話し合いて、仲間の主張を踏まえたり、取り入れたりして、立場や根拠を明確にして主張・議論している。 →社会参画の視点	・定期テストの点数 ・振り返りシート ・パフォーマンス課題
		主体的に学習に取り組む態度	・学習単元・課題について主体的に調べ分かうとして課題を意欲的に追究している。 ・よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとする。	・振り返りシート ・パフォーマンス課題

【授業の進め方(授業のポイント)】 ＊基本的には、教科書に沿って教科書のページ順に学習する。 ＊進度の目安は1時間で見開き2ページ進めることを原則とする。 ＊ワークシートを書く際に、「疑問に思ったこと」、「学んだこと」など、個人で考えることを積極的にメモを取って大切にすること。 →自分で考える習慣が自分を「深化」させてくれ、振り返りを書くための手立てとなる。	【家庭学習について】 ＊自主学習ワークは、1つずつ○つけまですること。 ・まずは自分の力で取り組むこと。漢字で分からないものは、かな交じりで書く。 ・その後、教科書を見て分からなかったところを解く。→正しい漢字に訂正する。 ・最後に答え合わせをして、教科書を見ても分からなかった部分はチェックしておく。 ＊学習したことを多面的につなげるため社会的事象について、常に「アンテナ」を高く持つこと。
---	---

1学期		2学期		3学期	
歴史的分野 ・戦乱から全国統一へ ・武士による全国完成の動き パフォーマンス課題 歴史まとめ	・織田信長や豊臣秀吉が行った政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことを考える ・江戸幕府の成立と対外関係について考える。	・日本の地域的特色 ・九州地方	・九州地方の人々の生活や産業について、自然環境を踏まえて考える。	歴史的分野 ・開国と幕府の終わり	・日本が開国した背景を、政治的・社会的な理由を踏まえて考える。
・天下泰平の世の中 ・社会の変容と幕府の対策 ・欧米諸国における「近代化」	・江戸幕府がどのような社会だったのか、身分制や産業・工業・文化を踏まえて考える。	・中国・四国地方 パフォーマンス課題 過疎地域の町おこし	・中国・四国地方の生活や産業について、交通網や通信網の整備を踏まえて考える。	・明治政府による「近代化」の始まり パフォーマンス課題 歴史まとめ	・明治維新後の日本について、日本で新たに作られた制度をもとにまとめる。
地理的分野 ・身近な地域の調査 ・日本の地域的特色	・地形図についての見方を理解する。 ・日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるか説明する。	・近畿地方	・近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全がどのように取り組まれているか説明する。		
		・中部地方	・中部地方の産業の発展について、自然環境や交通網を踏まえて考える。		
		・関東地方 パフォーマンス課題 一極集中について	・関東地方における人口の集中が人々の生活にどのような影響を与えているか考える。		
		・東北地方	・東北地方の生活や文化についてまとめる。		
		・北海道地方	・北海道地方の自然環境が人々の生活や産業にどのような影響を与えているか説明する。		

第2学年	数学	使用教科書	未来へひろがる 数学2(啓林館)	担当教員	小西 遼・井崎 茜
------	----	-------	------------------	------	-----------

付けたい 資質・能力	論理的思考力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 (1) ものごとに筋道を立てて考える力（論理的にものごとを考える力） (2) ものごとを深く考える力（ものごとの本質を見つける力） (3) ものごとを分かりやすく説明し、人に伝える力（説得力） (4) 一つ一つのことがらを結び付けて、新しい考え方を見つける力（クリエイティブな思考力） (5) 日常生活の中で生かされている様々な数学のよさが分かる。		知識・技能	学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行う。定期テストや小テストで習熟度を評価する。	定期テスト 小テスト
		思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力,判断力,表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト 小テスト
	【学習目標】 文字を用いた式を、目的に応じて計算、変形する力を養い、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。平面図形について、活動を通して理解を深め、数学的な推論、論理的に考察し表現する力を培う。一次関数について理解し、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。不確定な事象を調べ、確率について理解し用いる能力を培う。	主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力,判断力,表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	ワークの記述 自己評価（内容） レポート（内容） 小テスト

【授業の進め方(授業のポイント)】 ○苦手な人はまず、基本問題を理解できることを目標にしましょう。 ○基本が理解できたら、発展問題に挑戦し力を伸ばしましょう。 ○他の人への質問や全体への呼びかけに対しても、「自分ならこう考える」という意識を常にもつようにしましょう。 ○考え方は一つではありません。自分なりの考えをもちましょう。 ○間違った解答をしたときは、すぐに解答を消さずに間違ったところを見つけ、なぜ間違いが起こったのかを順を追って考えましょう。	【家庭学習について】 ○授業で学んだことはその日のうちに家で復習しましょう。 ○分からないところは解答を参考にもう一度考えましょう。 ○よく考えても分からないところは次の日に先生に聞きましょう。 ○その日に習った問題をもう一度解いてみましょう。 ○復習に重点を置いて毎日学習をしましょう。 ○眺めるだけの学習ではなく、書く学習を行いましょう。 ○問題が自分ひとりで解けるようになるまで繰り返し学習しましょう。
--	--

1学期		2学期		3学期	
式の計算	単項式と多項式 多項式の計算 単項式の乗法、除法 式の値 文字式の利用 等式の変形	1次関数	1次関数の式の求め方 2元1次方程式のグラフ 連立方程式とグラフ 1次関数の利用	三角形と四角	ことがらの逆と反例 平行四辺形 特別な平行四辺形 面積が等しい三角形
連立方程式	2元1次方程式と連立方程式 連立方程式の解き方 いろいろな連立方程式の解き方 連立方程式の利用	図形の性質と合同	直線と角 三角形の角 多角形の内角と外角 合同な図形 三角形の合同条件 証明のしくみ	データの活用	四分位数と四分位範囲 箱ひげ図 データの傾向と調査
1次関数	1次関数 1次関数の値の変化 1次関数のグラフ	三角形と四角	二等辺三角形 正三角形 直角三角形	確率	確率 いろいろな確率

第2学年	教科名	使用教科書	未来へひろがるサイエンス2(啓林館)	担当教員	梅田 剛・川崎 楽
------	-----	-------	--------------------	------	-----------

付けたい 資質・能力	科学的に探求しようとする力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解するとともに、探究の過程を通して科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題
		思考・判断 ・表現	見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだして表現している。	・定期テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題
		主体的に学習に 取り組む態度	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。生命や地球に関する事物・現象に進んでかかわり科学的に探究しようとしている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。	・振り返りシート(学習前と学習後の比較) ・定期テスト振り返りシート

【授業の進め方(授業のポイント)】 授業プリントで必要な語句だけを書くのではなく、その語句を理解するための説明を振り返ったときに分かるよう自分の言葉でメモしておくこと。 観察・実験を行ったとき、のちの課題を作成するために必要な情報を実験ノートに記録する習慣をつけること。 分からないことは早く解決して積み残しにしないこと。	【家庭学習について】 ワークや教科書に載っている問題演習を中心に各自で取り組む。 授業中の課題を完成させるために必要な情報を時間内に提出できるように調べておくこと。
---	---

1学期		2学期		3学期	
化学変化と原子・分子	1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量	動物の生活と生物の進化 地球の大気と天気の変化	3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ 1章 地球をとり巻く大気のようにす 2章 大気中の水の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	電流の性質とその利用	1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界
動物の生活と生物の進化	1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき				

第2学年		教科名	使用教科書	中学生の音楽2・3上、中学生の器楽		担当教員	平田 麻美
付けたい 資質・能力		合唱表現力		評価	評価の観点		評価の方法
【身に付く力】 ・しっかりとした発声で仲間とのびのび歌う力(歌唱・合唱) ・アルトリコーダーの運指を理解して演奏する力(器楽) ・音楽の良さを味わい、魅力を文章で表現する力(鑑賞) ・音符やリズムの組み合わせを工夫する力(創作) 【学習目標】 ・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身につける。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				知識・技能	歌唱や合唱、アルトリコーダー、創作などの表現活動では知識と技能を評価し、鑑賞活動では知識を評価します。	実技テスト (歌唱・合唱、アルトリコーダー) 定期テスト	
				思考・判断 ・表現	表現活動では、表現を創意工夫しているかについて評価します。鑑賞活動では音楽を形づくっている要素をもとにしながら、音楽の良さや美しさを味わって聴き、曲の魅力などを文章にして評価します。	鑑賞曲の各ワークシート (交響曲第5番ハ短調、フーガ ト短調など) 合唱表現シート(楽譜) (COSMOSなど合唱曲)	
				主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価します。	振り返りシート (歌唱・合唱、鑑賞、アルトリコーダー、創作)	
【授業の進め方(授業のポイント)】 ①歌唱・合唱や器楽では、ある程度の練習を重ねると実技テストを実施します。練習の成果を発揮できるように、練習を大切にしましょう。また、お互いの表現を認め合い、実技テストでのびのびと発表できる雰囲気をつくりましょう。 ②鑑賞では、音楽の構造や雰囲気をを感じ取りながらよさや美しさを味わい、曲の魅力を文章で表現しましょう。 ③創作では、四分音符や四分休符、八分休符をつかって簡単なリズム創作をします。テーマに沿って、自分なりの工夫をしましょう。					【家庭学習について】 授業で学んだことを復習して、理解を深めましょう。 様々な音楽に触れる機会を持ちましょう。		
1学期		2学期		3学期			
【歌唱・合唱】	「夏は来ぬ」	【歌唱・合唱】	「文化祭学年合唱曲 COSMOS」※未定	【歌唱・合唱】	「合唱曲」※未定		
【鑑賞】	「夏の思い出」	【鑑賞】	「交響曲第5番 ハ短調」	【鑑賞】	「フーガ ト短調」		
【アルトリコーダー】	「オーラリー」「アニーローリー」	【アルトリコーダー】	「オーラリー」「アニーローリー」	【アルトリコーダー】	「ラヴァーズ・コンチェルト」		
		【創作】	リズム創作				

第2学年	教科名	使用教科書	美術2・3(光村図書)	担当教員	志賀 景子
------	-----	-------	-------------	------	-------

付けたい 資質・能力	自ら粘り強く取り組む態度	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	・材料や用具の正しい知識や、生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	・定期テスト ・実技(作品の着彩、彫刻など)
		思考・判断 ・表現	・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを主題に生み出し、創造的な構想を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることが出来る。	・レポート、鑑賞ワークシート ・実技(作品のデザイン、構想など)
		主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい、自ら積極的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・授業での見取り ・実技(作品の創意工夫や意欲、完成度)

【授業の進め方(授業のポイント)】 ・様々な作品や作家を知る中で、自らの表現へと創意工夫し、繋げていくこと。 ・クラスメイトや先輩の作品を鑑賞する中で、感じ方や考え方は百人百様であり、それぞれに良さがある事を理解すること。 ・レポートについては、自分の「感じたこと・考えたこと」を中心に出来るだけ沢山記入すること。 ・道具の使い方について、正しく理解し、ルールを守り、安全を確保すること。	【家庭学習について】 ・日常的に豊かに感じ取る「心」を持ち、新たな視点や疑問、課題意識を持ってアイデアを構想すること。
---	---

1学期		2学期		3学期	
・鑑賞「鳥獣戯画 絵巻」	日本最古の漫画と呼ばれる「鳥獣戯画 絵巻」の鑑賞を通して、時代を超えた表現の共通点や現代の漫画との違いを考える。	・鑑賞「モネ」	印象派の鑑賞を通して、日本と東洋が互いに影響し合いながら発展してきた事を知る。	・鑑賞「葛飾北斎」	江戸時代の浮世絵の鑑賞を通して、西洋に影響を与えた大胆な構図や明快な色彩の魅力を知り、日本文化への理解を深める。
・人権ポスター制作 ・色彩学習 ・構成美の要素	多くの人に伝わりやすく、魅力的なデザインを工夫し、表現方法を工夫して表す。 また色彩学習や構成美の要素を知る事で、より伝わり易くする為の色彩や構図を工夫する。	・木彫	自然の木のぬくもりを味わい、彫刻刀の正しい使い方や、日本の伝統文化について感じ取る。	・一点透視図	江戸時代の浮世絵師が西洋からいち早く取り入れた「遠近法」を学習し、平面上で奥行きを表す空間表現を学ぶ。

第 学年	教科名	使用教科書	新しい保健体育（東京書籍）	担当教員	荒木 宣・上村 詢也
------	-----	-------	---------------	------	------------

付けたい 資質・能力	挑戦する力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服、記録の向上に努めている姿や仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの 記述内容

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。 ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。 ・ペアやグループの取り組みを積極的におこなう。 ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。	【家庭学習について】 保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。
--	---

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動 陸上競技 球技	新体力テスト 集団行動 走り高跳び・走り幅跳び バスケットボール	【体育】 球技 器械運動 ダンス 武道 【保健】 3章 傷害の防止	ハードル走 バレーボール 創作ダンス・現代的なリズムのダンス 柔道 健康の成り立ちと疾病の発生要因 運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活	【体育】 陸上競技 球技 【保健】 4章 健康な生活と疾病の予防② 【体育理論】 2章 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	長距離走 サッカー 体の発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達、生殖機能の成熟、異性の尊重と性情への対処、心の発達、自己形成と心の健康、心と体の関わり、欲求と心の健康、ストレスによる健康への影響、ストレスへの対処の方法 運動やスポーツの必要性和楽しさ、運動やスポーツへの多様な関わり方、運動やスポーツの多様な楽しみ方

第2学年	教科名	使用教科書	新しい保健体育（東京書籍）	担当教員	伊藤 亜佐子
------	-----	-------	---------------	------	--------

付けたい 資質・能力	挑戦する力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断・表現	知識や技能を活用し、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服、記録の向上に努めている姿や仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健ノートの記述内容

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。 ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。 ・ペアやグループの取り組みを積極的にこなす。 ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。	【家庭学習について】 保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。
---	---

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動 器械運動 球技	新体力テスト 集団行動 跳び箱運動 ソフトボール	【体育】 球技 陸上競技 武道 陸上競技 【保健】 3章 傷害の防止	バレーボール 走り幅跳び・走り高跳び 柔道 長距離走 傷害の発生要因、交通事故の発生要因、交通事故の危険予測と回避、犯罪被害の防止、自然災害による危険、自然災	【体育】 ダンス 球技 【保健】 4章 健康な生活と疾病の予防② 【体育理論】 2章	創作ダンス・現代的なリズムのダンス バスケットボール 生活習慣病の起こり方、生活習慣病の予防、がんの予防、喫煙の害と健康、飲酒の害と健康、薬物乱用の害と健康、薬物乱用の社会的な影響、喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処 運動やスポーツの効果、運動やスポーツの学び方、運動やスポーツの安全な行い方

第2学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology	担当教員	大槻 晃央
------	-----	-------	-------------------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	生活における課題解決力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	<知識>生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身につけているか。エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについての理解があるかを図る。 <技能>文書処理ソフトウェアにおいて、資料作りができていくか。タイピングを時間内に正確に早く入力できるか。はんだづけにおいて、必要最低限の量で均一に揃えることができていくか。	定期テスト 小テスト ソフトウェアの操作 (文書処理ソフト) はんだづけ(実習)
		思考・判断 ・表現	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身につけているか。 →さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えているかを確認する。電気による事故を防ぐ方法について考えている。	定期テスト 振り返りシート(内容) 電気に関するレポート (内容) ソフトウェアの操作 (PowerPoint)
		主体的に学習に 取り組む態度	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を図る。 →情報機器の仕組みや、どんな加工がされ、組み合わせられているかを調べたり、実習に意欲的に参加しているか。	プリントの記述 振り返りシート(内容) レポート(内容)

【授業の進め方(授業のポイント)】 ○板書を丁寧にしながら、授業内での補足や説明をしっかりとメモしていくこと。 →大事な単語をプリントに記入する。自分の考えを書くスペースは間違っても良いので、そのとき考えたことを記入する。補足として、例えば話や由来などを話すので、メモ欄や空いたところにメモをとれば、見返したときにわかりやすいプリントに仕上がる。 ○実習では、工具の使い方動画やヒントを参考にし、練習の時間にしっかりと試すこと。 →お手本動画や解説プリントをしっかりと見る。練習時間は積極的に取り組み、わからないことはちゃんと質問するようにする。 ○振り返りカードをしっかりと記入すること。 →授業で学んだこと、疑問に思ったこと、質問などをしっかりと記入していると、チェックした際に質問にコメントできたり、次の授業で全体に補足をしたり、個別で机間指導するなど、教師側も改善できます。実習のときには、次の目標や予定を記入しておくこと、どの作業から始めれば良いかがすぐに思い出せて、スムーズに作業に取りかかれる。	【家庭学習について】 ○プリントの単語だけを見るのではなく、説明できるくらい意味も確認しておく。 →プリントに書いた補足や由来のメモが活きる。 ○実習で使った工具やソフトの使い方、決まりなどは必ず振り返っておくこと。 →定期テストや次回の実習に活かせる。 ○日常生活の中で、使用している家電がどれだけ電気を消費しているのか?そのたこ足配線が使用できるかを考えたり、機械の動く仕組みを考えたりする。情報機器に触れる機会を増やす。→学習への理解が深まる。
---	---

1学期		2学期		3学期	
D(1)生活や社会を支える情報の技術	①安全に利用するための情報モラル ②身の回りの材料と加工の技術 ③木材、金属、プラスチックの特性 ④材料に適した加工方法 ⑤丈夫な製品を作るために ⑥材料と加工の技術の工夫を読み取ろう ⑦製作品を構想し、設計しよう	C(1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術とは何だろう ②発電の仕組みと特徴 ③電気を供給する仕組み ④電気回路について考えよう ⑤電気機器を安全に使用するための技術 ⑥電気回路を設計・製作しよう ⑦問題解決の評価、改善・修正 ⑧運動エネルギーへの変換と利用	C(1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	①回転運動を伝える仕組み ②機械が動く仕組み ③機械の共通部品と保守点検の大切さ
D(2)ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングによる問題の解決		C(2)エネルギー変換の技術による問題の解決		C(2)エネルギー変換の技術による問題の解決	④エネルギー変換の技術の最適化 ⑤これからのエネルギー変換の技術
				(3)社会の発展とエネルギー変換の技術	

第2学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）	担当教員	栗栖淳子
------	-----	-------	---------------------	------	------

付けたい 資質・能力	日常生活の問題解決力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】家庭科を学ぶと・・・ (1) 身近な生活場面での衣食住などの自立を目指す。 (2) 自分から家族、家族から地域・社会へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために、より良い生活を工夫する力を身につける。 (3) 問題解決的な学習を繰り返して、課題を解決する道筋を見つける。	【学習目標】 ・家庭内事故の危険性について理解でき、予防対策を考える。 ・健康で快適な室内環境について理解し、整え方を工夫できる。 ・向日市の災害の危険性について理解し、地震などの災害への備えについて考える。 ・製作に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱いについて理解できる。 ・資源や環境に配慮して布を用いた物の製作計画を考え、工夫して製作できる。 ・中学生に必要な食品の種類と概量をふまえて、工夫して1日分の献立を作成できる。 ・食品の選択と購入のために必要な情報について理解できる。 ・生鮮食品・加工食品の特徴や表示の内容について理解できる。	知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	定期テスト 実習・作品 ワークシート（内容） レポート（内容）
		思考・判断 ・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト ワークシート（内容） レポート（内容）
		主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	ワークノートの記述 振り返りシート（内容） レポート（内容）

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・説明をしっかりと聞く。 ➡ 黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたこともメモし、分からないことは質問する。 ・その時間の課題に挑戦する。 ➡ 苦手な活動でも挑戦する。うまくいかなかったことも諦めず、根気強くやってみる。グループでの交流や、協力することも大切にする。 ・授業の振り返りをする。 ➡ 授業の振り返りをする中で、授業のポイントだけでなく今の自分の課題や、これからの学習の進め方についても振り返りをする。	【家庭学習について】 ・学習したことを家庭でも実践し、生活の改善に務める。 ➡ 授業の学習内容について、実践力を高める。 ・時事問題に関心を持ち、社会と自身の生活のつながりを考えていく。 ➡ 授業の学習内容について、考えを深める。
--	--

1学期		2学期		3学期	
3編1章 住まいの役割と 安全な住み方	○住生活 「安全に住むためには」 「より良い住生活をめざして」 「環境に配慮した生活」	2編2章 生活を豊かにする ために	○衣生活 「作って楽しい布作品」 （作品作り）	1編4章 日常食の調理	○食生活□ 「持続可能な食生活」 「日常食の調理」
2編2章 生活を豊かにする ために	○衣生活 「作って楽しい布作品」 「持続可能な衣生活」 （作品作り）	1編2章 中学生に必要な 栄養を満たす食事	○食生活□ 「何をどれくらい食べればよいか」 「バランスの良い献立作り」	4編1章 私たちの消費生活	○消費生活と環境 「消費者としての自覚」 「購入方法と支払い方法」
		1編3章 食品の選択と購入	「食品の選択と購入」 「生鮮食品と加工食品の特徴」		
		1編4章 地域の食文化	「地域の食文化」		

第2学年	教科名:英語	使用教科書	New Crown English Series 2 (三省堂)	担当教員	方山 海・秦 水帆子
------	--------	-------	----------------------------------	------	------------

付きたい 資質・能力 即興英会話力		評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ① speak「話す」…自分で考えたことを英語で伝える力 ② read「読む」…英単語や英文を正しい発音で、正しく内容を読み取る力 ③ write「書く」…英単語を正しい綴りで、また自分の思いや意見を英語で書く力 ④ listen「聴く」…英語を聴き、その内容を正確に理解する力		知識・技能	・定期テスト:学期毎の定期テストにおける、英語についての「知識・技能」を測る問題の正誤。主な問題は「リスニング」「英単語」「文法」「長文読解」とする。 ・ペアテスト・発表・英作:教科書各章末の「USE Writing」・「Project」での英作文において、該当文法を正しく用いて作文、発表できているかを測る。 ・リスニング・音読テスト:各単元終了時のミニテストの正誤。 ・AETテスト:AETの先生との会話テストにおける「発音」「強勢」「音量」を測る。	定期テスト(文法・長文・聞き取り) ペアテスト・発表・英作 リスニングミニテスト 音読テスト AETテスト
【学習目標】 ① speak「話す」:自分の予定や思い出について、即興で伝え合うことができる。/自分の町について、即興で簡単な説明ができる。/身近な話題について自分の考えを整理した上で簡単な話し合いができる。/将来の夢について自分の考えを整理した上で発表することができる。/社会的な話題について簡単な議論ができる。/読んだ英文の内容について考えと理由を話すことができる。 ② read 「読む」:チラシや案内、記事、メールを読み、必要な情報や内容をつかむことができる。/短い物語を読み、あらすじをつかむことができる。 ③ write 「書く」:ポスターやエッセイ、カードを書くことができる。/読んだ英文の内容をふまえて、自分の考えや理由を書くことができる。 ④ listen 「聴く」:短いアナウンスやニュース、会話を聞いて、その大まかな情報や内容を聞き取ることができる。		思考・判断 ・表現	・定期テスト:学期毎の定期テストにおける、英語についての「思考・判断・表現」を測る問題の正誤。主な問題は「英作文」「自己表現」「状況に応じた適切な英文」とする。 ・ペアテスト・発表・英作:教科書各章末の「USE Writing」・「Project」での英作文において、該当文法を正しく用いて作文、発表できているかを測る。 ・AETテスト:AETの先生との会話テストにおける「内容理解」「表現」を測る。	定期テスト(表現問題) ペアテスト・発表・英作での表現力 AETテスト
		主体的に学習に取り組む態度	・ペアテスト・発表・英作:教科書各章末の「USE Writing」・「Project」での英作文において、該当文法を用いて自分の考えや理由を作文、発表できているかを測る。	ペアテスト・発表・英作への姿勢 イングリッシュカード

【授業の進め方(授業のポイント)】 ① Small Talk:授業の初めに、これまで学んだ文法を活用してどれくらい英語で話すことができているかを測る会話をします。練習しながら少しずつ英語で話す練習をしていきましょう。 ② Speaking Test:各単元で学んだ文法を使ってペアやグループでスピーキングテストを行います。あるシチュエーションでの会話が基本です。ルールは制限時間内にどれだけ英語で話すことができるか。創意工夫があれば評価も高くなります。繰り返し練習して完成度を高めていきましょう。 ③ Mini Test:各単元終了時にミニテストを行います。単元毎、4技能それぞれのテストになります。定期テストに活用されることもあるのでしっかり見直ししましょう。	【家庭学習について】 ① ワークの活用 使用するワークは「Joyful Work Book 2」です。教科書と連動して予習・復習ができるようになっています。主に宿題や授業内で活用します。授業に必ず持ってくるようにしましょう。 ② 自主勉強 自主勉強があれば定期テスト時に提出してください。ノートに英単語練習や授業プリントやワークの解き直し、文法事項のまとめなどを書き、積極的に出しましょう。
--	---

1 学期		2 学期		3 学期	
Lesson 1 接続詞when, if, that	Get Part 1 接続詞when, if Get Part 2 接続詞that USE Read Get Plus 1 May I ～? (依頼表現)	Lesson 4 第4・5文型	Get Part 1 第4文型 Get Part 2 第5文型 USE Read Get Plus 4 have to ～	Lesson 7 現在完了	Get Part 1 現在完了 (完了) Get Part 2 現在完了 (経験) Project 3 ディスカッション
Lesson 2 不定詞	Get Part 1 不定詞名詞的用法 Get Part 2 不定詞形容詞・副詞的用法 USE Read Get Plus 2 It is for to構文 Project 1 将来の夢	Lesson 5 比較級・最上級・同格	Get Part 1 比較級・最上級 Get Part 2 more, most Get Part 3 同格 USE Read Get Plus 5 how to Project 2 旅行計画		
Lesson 3 "There is / are ～." 動名詞	Get Part 1 There is / are ～. Get Part 2 動名詞 USE Read Get Plus 3 助動詞must	Lesson 6 現在完了	Get Part 1・2 現在完了 (継続) USE Read Get Plus 6 Could you ～?		